

第36回国賠同盟奈良県本部総会

8月25日(日) 13:30~16:30

奈良市生涯学習センター(奈良市杉ヶ町)

13:30 総会 14:45 休憩

15:00 記念講演

—許さない！戦争する国づくり—

奈良県平和委員会理事長

河戸憲次郎氏

記念講演はどなたでも
参加が可能です



奈良県版

No. 379

2024年8月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
奈良県本部

〒630-8213 奈良県
奈良市登大路町5-5
奈良県教育会館内
☎ 0742-27-8640
振替 0990-2-209460

われわれの 運動の基本

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対する
 - 二、国は、治安維持法が人道に反する悪法であつたことを認めること
 - 三、国は、治安維持法犠牲者に賠償を行うこと

会場・奈良市生涯学習センター
3階 学習室

奈良市杉ヶ町23
Tel 0742-26-8811



市内循環バス

シャープ・白土・王寺方面行バス
高畑・春日大社本殿方面行バス

大森町下車
徒歩3分

2万人の同盟建設を目指し

第36回県本部総会を成功させよう

奈良県本部会長 加藤宣之

会員のみなさん、この8月25日(日曜日)に第36回奈良県本部総会が奈良市生涯学習センターで開催されます。

昨年の県本部総会から1年が経過し、この間今年6月には2年ごとに開催される全国大会に県同盟は同盟中央本部が提起した会員拡大の特別期間の取り組みで14名の会員を新たに拡大し、全国大会の成功の一翼を果たすことが出来ました。

また同盟の重要な運動課題として毎年取り組んでいる治安維持法犠牲者への謝罪と賠償をもとめる国会請願と国賠署名では、今年5月の国会請願行動で団体署名41筆、個人署名は2,405筆と昨年度署名数以上の署名を提出することができました。

組織建設課題では、昨年県本部総会で掲げた会員拡大自主目標の達成に向けて、前回県本部総会から毎月連続の会員拡大の努力にもかかわらず、ほぼ同数の退会者があり、この1年間の会員現数はほぼ横ばい状態にあります。

組織建設課題として今年5月に開催された旧女性部の「なら国賠ミモザ」の新スタートや、同日に郡山支部で開催された山本宣治の「武器なきたたかい」DVD上映会などは、治安維持法公布100年にむけ、今後の同盟の重要な組織建設課題として支部や専門部会での活発な活動が求められています。

そのほか治安維持法犠牲者の顕彰活動では、今年4月に奈良長谷川テル顕彰の会中心に行われた長谷川テル訪問記念の碑の碑前祭と交流会には県外からも団体、活動家に参加し、6月には滋賀県長浜市で30年前に地元高校で「長谷川テル」の演劇を行なった主催者や生徒との懇談会、交流会を開催し、相互に親睦を深めました。今回の県本部総会は今日の情勢のもと、同盟の役割と課題を明らかにし、同盟の運動と組織活動方針を決め、その先頭にたつ役員を選出することを目的とします。

なお今回の県本部総会には奈良県平和委員会の河戸憲次郎氏を招いての記念講演を予定しています。

是非とも第36回奈良県本部総会に会員のみなさまのご参加を、ここに呼びかけるものです。

自衛隊名簿提供違憲訴訟 (RYU裁判) 第1回口頭弁論開かれる

7月2日、奈良地裁において「自衛隊名簿提供違憲訴訟」の第1回口頭弁論が行われました。

自衛隊への個人情報提供は憲法違反である、奈良市在住の当時高校3年生が提訴した全国初めての裁判です。101大法廷は傍聴者希望者が定員を超え、奈良地裁としては異例の抽選になりました。

国賠同盟からは、加藤宣之会長、小林照代副会長、伊藤恵美子事務局長が参加しました。終了後の報告集会には、オンラインも含め130人が参加しました。

陳述に立った佐藤博文弁護士は、自衛隊の国際法上の地位は「正規軍兵士」又は「戦闘員」であり、今回の件は「自衛隊員」一般ではなく「賭命義務」を持つ「自衛官」とその候補生の募集の

ための名簿提供であったと指摘。警察官も職務は「犯人を確保し、法の裁きを受けさせ、社会秩序を守ること」に

あり、「正当防衛の範囲で武器の使用が認められるにすぎず、仮に凶悪犯でも殺傷してはならず、自分の命を犠牲にする義務はない」のに対し、自衛官には「自らの命を賭けて相手を殲滅

(殺傷)する」武力行使への「服従義務」があります。教育訓練の目標は「自覚に基づく積極的な服従の習性を育成する」ことにある(服従ハンドブック)ことを指摘。このような兵士としての本質が隠されたまま自衛官募集が行われ、募集に協力させられていることは重大な問題であると述べました。

また、プライバシー権について、八木和也弁護士は、これまでの判例を示し「プライバシー情報は、取り扱い方によっては個人の人格的な権利、利益を損なうおそれのあるもの」と規定されたことや、住民が国や地方自治体に対し、自らの住所、氏名、生年月日

などを提供されない自由が憲法13条の保障として認められると明言されたことを指摘しました。

奈良市による自衛隊への名簿提供について、「最高裁の規定に照らしても、法令の根拠も正当な目的もなく、漏洩対策も不十分で、合憲となる余地はない」と訴えました。

次ページへ



「憲法13条の個人主義をどこまで大事にするかが問われている」と弁護団長の佐藤真理弁護士

引き続き、傍聴など支援を強めていきますように。

〈第2回口頭弁論は

10月8日14時から

奈良地裁101大法院です〉



「賭命義務」が課
されている自衛
官の本質・実態に
ついて
佐藤博文弁護士
が講演

平和のための奈良市戦争展開催される

7月25日から28日まで奈良市生涯学習センターにて、第29回目の「平和のための戦争展」が開かれました。

7月24日、設営後に奈良市の職員が訪れましたが、「勉強になりました。良い取り組みですね」と、昨年とは打って変わった対応でした。「沖縄基地のパネルが政治的だ」と取り外さなければ後援を取り消すかのように威圧的な干渉をした共生社会推進課は、今年からは事前の書類審査のみでよいとのこと。実行委員会が市の対応に毅然と抗議したこと、29回にのぼる戦争展の実績、市民の表現の自由を守れという運動が実った結果だと思っています。

さて、猛暑の中で開かれた戦争展。軍需工場で15歳で働き、銃弾をつくっていた。航空機の機銃掃射をうけ、逃げながら「兵隊が人を殺すんじゃない。戦争が人を殺すんだ!」とはつきり体験したという語り部さん。教育大戦争遺構

保存会の学生さんたちは、「自分たちの学校にも戦争があった」ということを知らずに卒業してほしくないという強い思いから調査を続け、地域の人や小学生などに交流を広げていったとのこと。

「いくさの少年期—紙芝居とお話」は作家の寮美千子さん。原作者の田中幹夫さんもお話ししました。

最後の日は、恒例のピースフェスタのあと、ウクライナやパレスチナなどの紛争地取材し、テレビや新聞などで現地報道を伝えている西谷文和さんの講演。

今年は特に、実行委員や出演者とコミュニケーションをとって下さる方が多かったこと、「また〇〇日に来るわ」と、2回、3回来て下さる方なども多く、お互いに情報交換もできました。残念なのは、小学生など、子どもさんの数が少し少なかったと思います。来年は、戦後80年、戦争展も30回の節目の年にふさわしい企画にしたいと思っています。ぜひお越し下さい。



戦争展、治安維持法関連 コーナー展示物



「ここに戦争があつた」 発表する奈良教育大学 戦争遺構保存会の学生

ユネスコ憲章の前文

- ・戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
- ・平和が失われないためには、

2024年度近畿ブロック交流会要綱

◆日時；2024年9月23日〔月・振替休日〕
午後1時開会～9月24日〔火〕正午閉会

◆場所；神戸しあわせの村
神戸市北区しあわせの村1番1号

◆プログラム

●9月23日〔月〕

13；00 開会あいさつ

記念講演 石川康宏神戸女学院大学名誉教授

15；00 ブロック会議

テーマ「治安維持法100年、2万人同盟建設の実現を」
中央本部報告と各県本部からの報告

18；30 懇親会

●9月24日〔火〕

9；00 2会場に別れて分散会討論

12；00 閉会解散予定



◆参加費；分担金、宿泊費、朝食費、交通費は同盟負担します。
但し懇親会費、昼食代は自己負担とします。

◆申込締切日；9月10日〔火曜日〕まで

参加希望の方は下記まで

加藤 090-4765-3801

伊藤 090-8552-6800

季節の 言の葉

手と足と平和の瘦せて獄暑かな

あの戦争を体験した人や、焼跡を必死になつて生きのびた人たちが、エアコンをつけることをためらつて熱中症で命を落とされていく。

一方で税金を食い物にするセイセイたちは、「戦争する国づくり」に余念がない。

最後に紹介するのは、当時6歳の子の作品。

へいわとは

ちきゅうもひともしなぬこと

川
柳

きな臭い法改正まゆにつば

やつぱりな原発地下に活断層

万博を祝うか呪うかガス爆発

郡山支部 杉本英雄

近大で世話をかけてるマグロです

目の術後老妻よめのシワをみて玉手箱

告発者を自死に追いやる維新知事

奈良の愚僧

編集後記

覚悟をして、玄関のドアを開けるのですが、ムワァッとまとわりつくような熱気に思わず、後ずさりしてしまいます。

みなさんお元気でしょうか？ 平和運動も体力勝負、気力だけでは乗り切れません。

8月は、6日、9日、15日、国賠同盟としては県本部総会もあります。しっかり食べて、よく眠って、頑張ろうではありませんか。

さて、普段スポーツにそれほど関心の無い人でもオリンピックとなると話は別ようです。きたえられた筋肉に、ほとばしる汗は美しい。若い選手らにまじって4人のおじさん選手の満面の笑みがテレビで映し出される。パリ五輪総合馬術団体で92年ぶりに銅メダルの快挙です。92年前の1932年、馬術で金メダルに輝いたのは西竹一選手。

しかし、西選手は1945年大戦末期2万人が玉碎した硫黄島で戦死、今なお遺骨はみつかっていません。西選手は、少し立場の違う人ではありましたが、スポーツ界をみても、戦争は多くのアスリートの命を奪いました。

オリンピックは平和の祭典とはいふけれど、こうした開催中も紛争は続き、さらに拡大しています。世界中から戦火が消え、基地が、核が、暴力が、貧困が、差別がなくなり、そしてオリンピックが花開く……。

スポーツ音痴の私の真夏の夜の夢です。

E・I

2024年会員現勢・署名数 [7月31日現在]

① 会員現勢 80名 [前月比 ±1]

② 国賠署名

 団体署名 3 [+ 2]

 個人署名 20 [+ 10]